

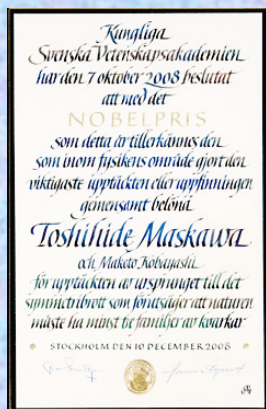


第55回定例 仁科記念講演会  
(東京大学理学部物理学教室主催、仁科記念財団後援)

益川 敏英 教授 (京都産業大学)  
2008年度 ノーベル物理学賞受賞者

「70年の素粒子、混沌からパラダイムへ」

混乱の1960年代から収斂の1970年代、そして2010年代へ



2009年12月4日(金)  
午後4時00分～午後5時30分

東京大学安田講堂  
(午後3時30分開場, 入場無料)  
会場へのアクセスは下記をご覧ください

<http://www.u-tokyo.ac.jp/> Useful Links 内のキャンパスマップをクリック



1905年にアインシュタインによりうち立てられた前期量子論も、1920年代には非相対論の枠の中での量子力学となり、ミクロの世界の法則としてハイゼンベルグとシュレディンガーにより完成を見る。この相対論化はすぐにハイゼンベルグとパウリの場の理論として成し遂げられるが、高次補正は発散を含みそれをどう処理して良いか分からず、混乱を極めた。60年代は各大家に一人一学説のオンパレードであった。これが1970年代初頭に統一理論、標準理論に収斂していく。この辺りの様子を、研究者の行動習性ととも語り、2010年代を考察してみたい。

※ 専門外、学生の方にもわかりやすくお話し頂く予定です。奮ってご来場下さい。

※ 問合せ先: colloquium2009@phys.s.u-tokyo.ac.jp 東京大学理学部物理学教室 専攻長 大塚孝治 事務 田中春美